



栃木県公共事業事前評価 自己評価書

【県土整備部 街路事業】

事業名	街路づくり事業
事業箇所	日光都市計画道路 <small>あかま いまちゅう</small> 3・4・11号赤間々今中線外1路線 <small>きよはらちょう いまいち おとろざわ</small> 清原町工区 日光市今市～日光市荊沢 L = 1,056m
事業主体	栃木県
事業担当課	県土整備部 都市整備課

I 事業の概要

【事業の必要性と効果及び影響】

事業の必要性

- ・都市の骨格を担う道路として、都市計画決定された道路である
- ・通学生徒などの歩行者及び自転車に対し、安全で円滑な通行空間の確保
- ・緊急輸送道路の円滑な交通の確保及び都市防災機能の強化
- ・良好な街なみ景観の創出

事業により予想される効果及び影響

- ・現道の拡幅、歩道の整備及び無電柱化の実施により、安全で円滑な交通が確保される。
- ・無電柱化により、災害発生時においても車両の通行が確保される。
- ・都市防災機能の強化と良好な街なみ景観の創出に寄与する。

【現況】市街地方面を望む



【電柱の林立状況】さくら市方面を望む



I 事業の概要

【事業内容】

【事業概要】

・都市計画道路3・4・11号
赤間々今中線と整合した現道を
拡幅し、両側に歩道を設置する
計画である。

- ① 総延長 : 1,056m
 - ② 計画交通量 : 8,805台/日
 - ③ 道路区分 : 第4種第2級
 - ④ 車線数 : 2車線
 - ⑤ 標準幅員 : 15.0m
- ※車道3.0m × 2
自転車通行帯1.5m × 2
歩道3.0m × 2

【事業見込額】

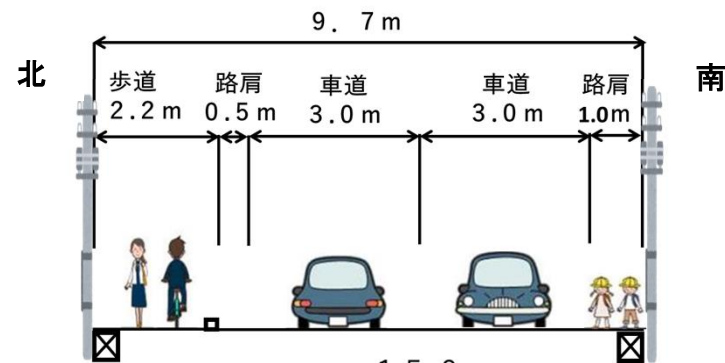
・総事業費 約28億円

【目標事業期間】

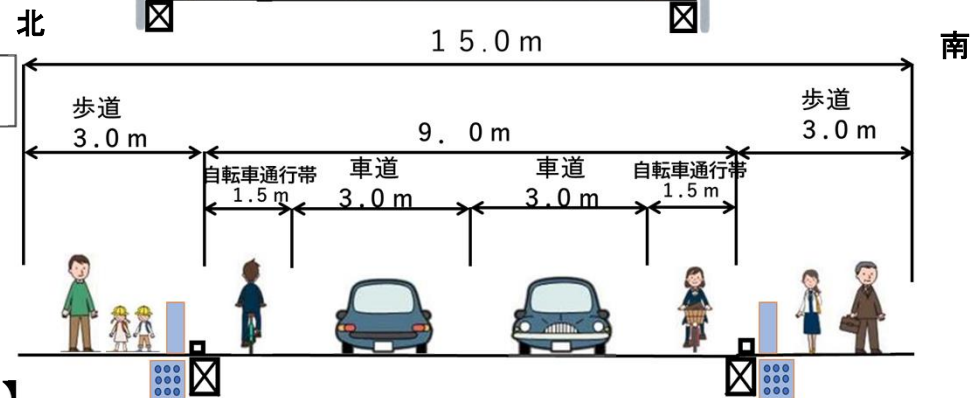
・約7年間

【横断図】

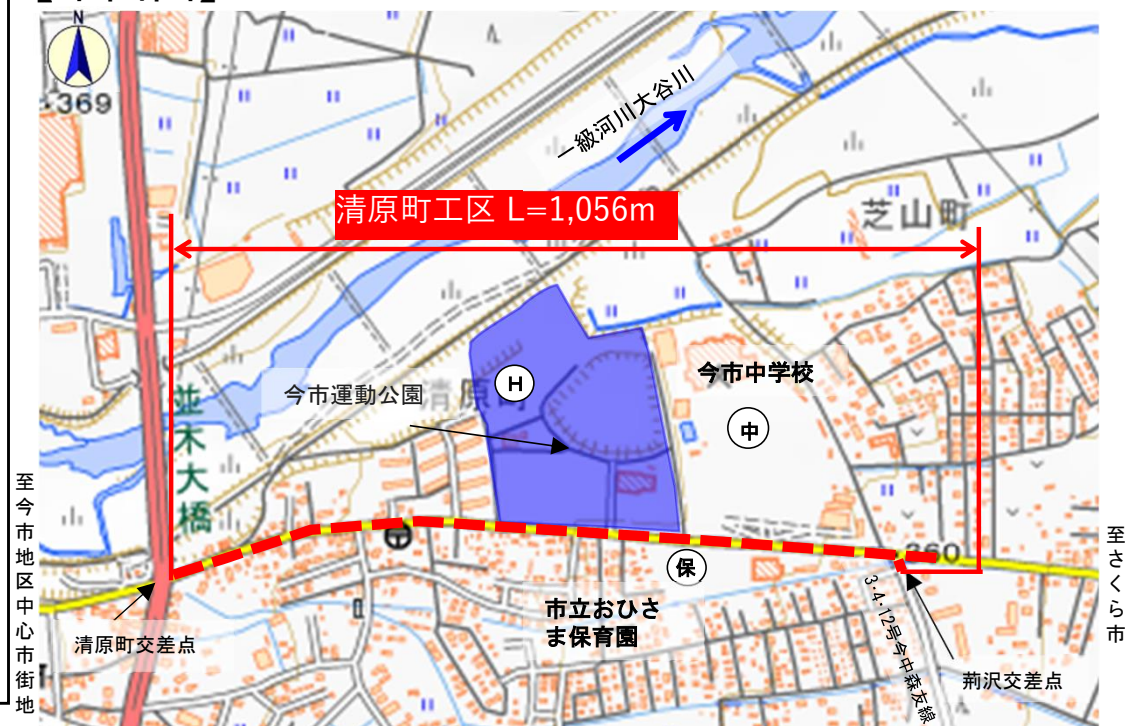
現況



計画



【平面図】



Ⅱ 事業の評価

【評価の視点】

1 事業の適時性

- ・ 地元との合意や占用事業者などの関係機関との協議が整うなど、事業熟度が高まったことから、令和８年度から事業に着手する。

2 事業の適地性

- ・ 日光都市計画道路として決定された路線である。

3 事業手法の適切性 (県が事業主体となる理由等)

- ・ 本都市計画道路は県道今市氏家線と同一路線であり、道路管理者として、県が事業を実施する。

4 事業コスト縮減等の可能性

- ・ 再生材の利用や、建設発生土の公共工事間流用に努め、コスト縮減を図る。
- ・ 無電柱化の低コスト手法の活用によるコスト縮減を図る。

【事業の投資効果】

1 費用対効果分析結果

費用便益費 (B/C)	総便益 (B)	総費用 (C)
－	電共、交安事業のため対象外	

【事業の対応方針（案）】

本事業については、令和８年度より着手する。